

教育情報 （森田事務局長）

5 ページ記事番号 1 - 4 小中学生の情報端末「1 人 1 台」配備完了 高校生はまだ 6 割 という記事。全国の公立小中学校に配備された情報端末の数が昨年度、児童生徒数を上回った。小学校では児童数 610 万 7666 人に対し、同構想で各自に配られたり、学校に配備されたりした児童用の端末数は 657 万 7212 台。4 年前の文教施策懇談会で、私教育用パソコンの台数の強化について要望したことがあるが、その時は、5 人に 1 台だった。時代の変化の速さを感じる。

10 ページ記事番号 3 - 1、道教委と道小・道中・道公教 定期研修の拡大など期待 ICT活用推進へ意見交換という道通の記事。8 月 4 日に開催された、意見交換会、文教施策懇談会の記事である。ここにいらっしゃる多くの方にご参加いただいた。3 年ぶりの会同開催。これから取り組む要望書、会長研修会での各地区の状況把握、また、各地区で抱えている状況等を道教委と直に話し合える貴重な機会である。参加した校長からは「意見交換会という和やかな雰囲気の中で自校の学校経営に生かせる勉強になる点が多々あり、次年度もぜひ会同で実施してほしい。」と感想があり、今後もこの取組を充実させたいと感じた。

14 ページ記事番号 4 - 2、釧路の小中 40 校→29 校 「地域が衰退」不安拭えず 市教委がたたき台 という記事。釧路市教委が 2031 年度までに市内の小中学校全 40 校を、29 校に再編統合するとした基本計画の「たたき台」に対し、保護者から「地域への影響が大きい」などと不安視する声が上がっているという内容。学校がなくなると、地域が衰退するという声は、以前も伝えたところだが、北広島市でも同様の話が上がっており、今後この流れは拡大することが考えられる。25 ページ、記事番号 6 - 2 - 2 で札幌市でも義務教育学校禍の流れがあるが、違うのは、6 年 3 年の区切りではなく、4 年 3 年 2 年の区切りとなっているところである。

30 ページ記事番号 8-5、いじめ、AI が見抜く仕組み導入へ「教員の勘と経験に頼るの限界」という記事。浜松市は、人工知能(AI)を使って「いじめ」を見抜く仕組みを、来年度から導入する。生徒らに貸与している学習用のタブレット型端末を使い、毎月 1 回程度アンケートを実施する。いじめの有無だけでなく、自己肯定感を確かめる質問なども交ぜる。回答内容は、AI などで自動分析。細かな変化などから、過去の事例と照らし合わせていじめの可能性を探ると伝えている。分析の結果、いじめにつながる危険があると判断した場合には、市教委が学校に伝えるという。カーナビを使い始めると、土地勘がはたらかなくなる傾向があるが、AI に頼ることで、教師の勘が鈍るということのないようにしたいものである。

31 ページ 記事番号 10-1 ラグビー日本代表を強豪に押し上げた世界的な名将、エディ・ジョーンズさんのインタビュー記事。日本とオーストラリアのスポーツ指導観の違いについて、わかりやすく書いている。エディーさんは、「私のチームのコーチは素晴らしかった。勝ちたい気持ちも当然あるが、それ以上に、いいプレーをすること、成長することにこだわっていた。」と話している。部活動の地域移行にも関わるが、この記事には、チャンピオンシップを目指す前の、指導者としての心得がある気がした。

33 ページ 「生まれ変わっても教員に」 ブラルタ生命保険が全国の教員 2 千人を対象に行った調査で、「転職するなら就きたい職業」や「生まれ変わったら就きたい職業」に「教員」と答えた割合が最も高いことが分かった、と記事は伝えている。教員って本当にクリエイティブな仕事だと私は思う。

34 ページ 記事番号 10-4 「教育あるある川柳」 審査結果の記事。「教育あるある川柳」を募集したら 5,553 作品集まった。教員って本当にクリエイティブな仕事だと裏付ける記事だが、最優秀賞は、「マスクして素顔知らずにクラス替え」。職員の異動にも同様のことが言える。